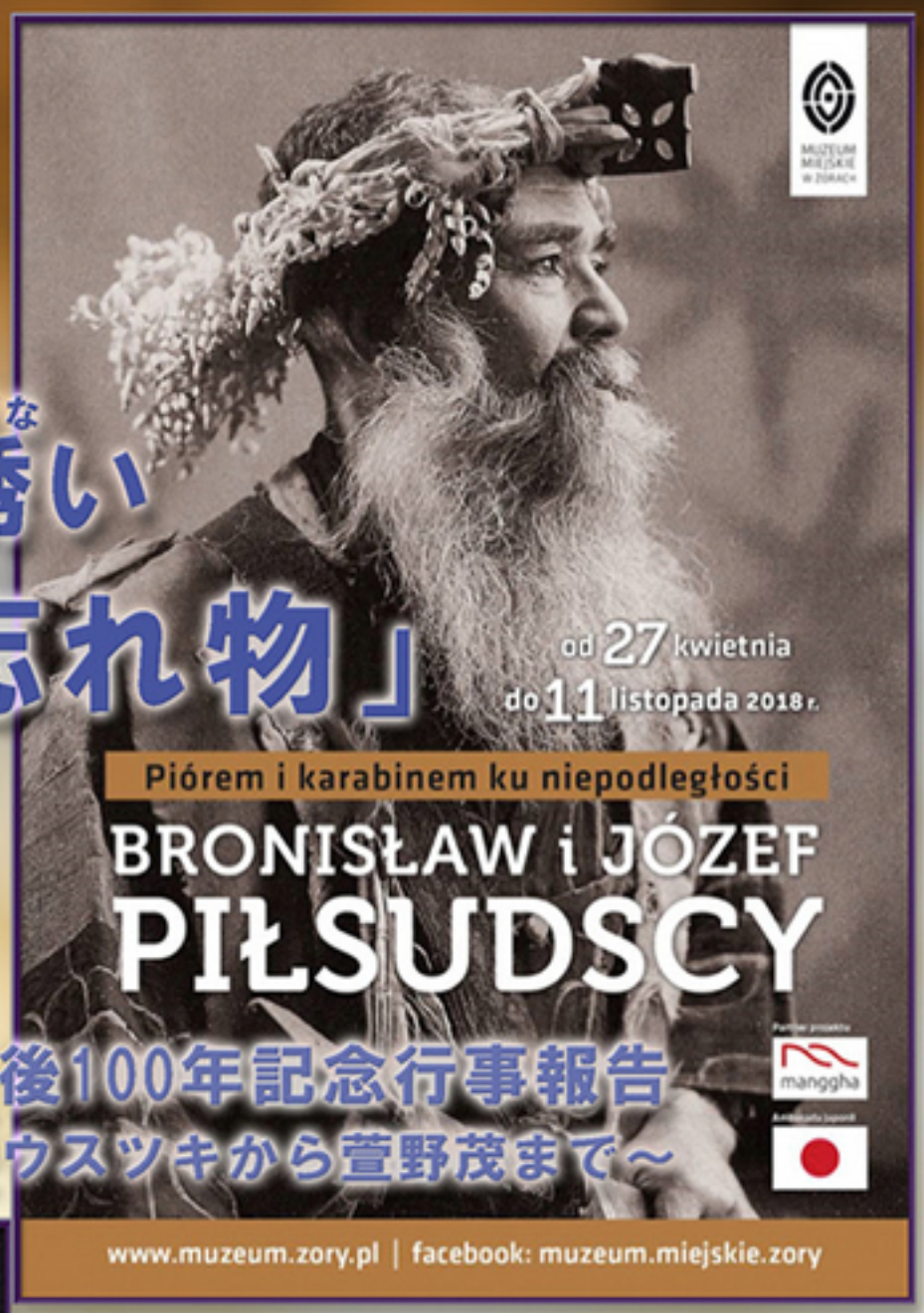
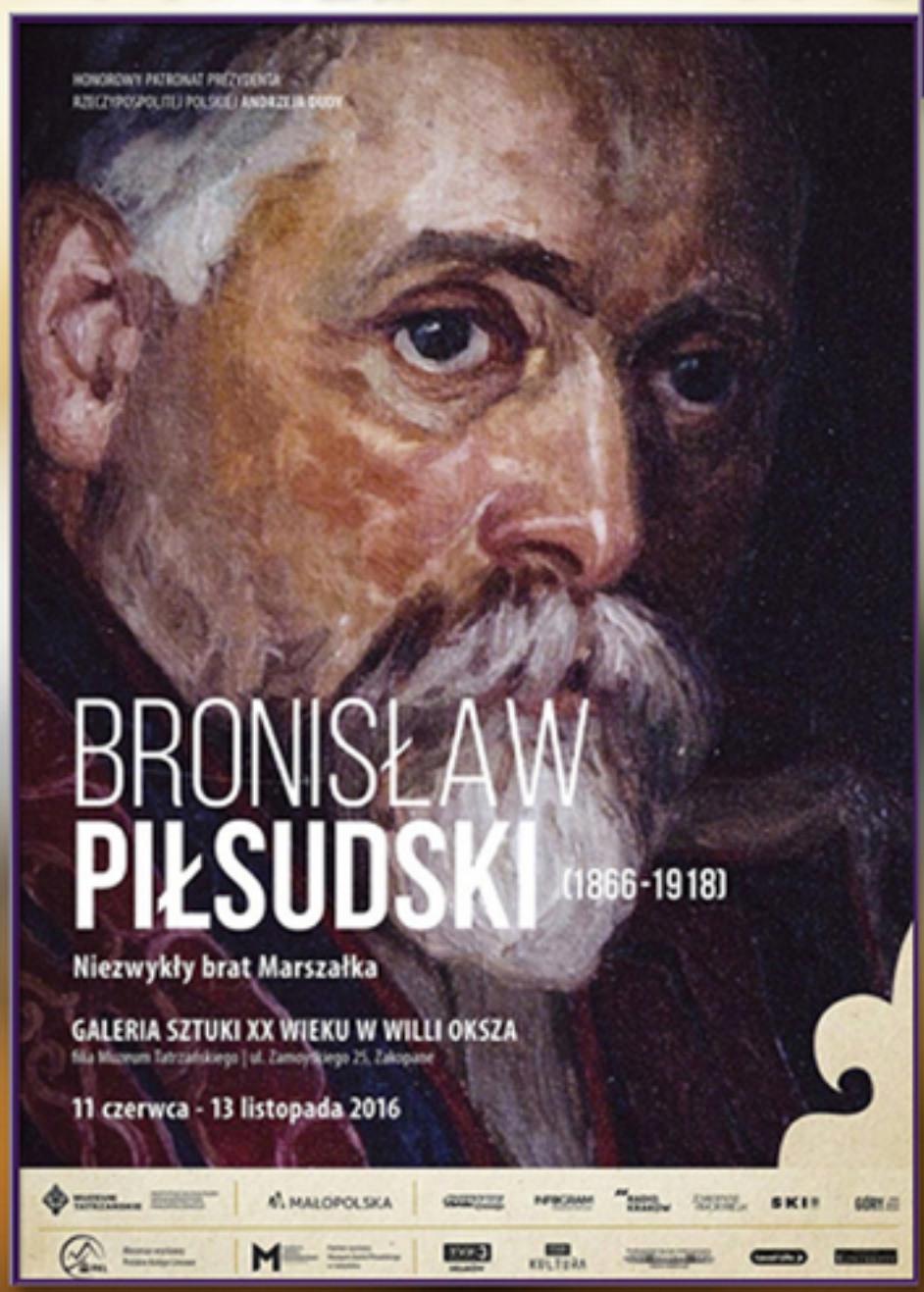
北海道ポーランド文化協会《第88回例会》
（どなたでもご参加いただけます）

ポーランドへの誘（いざな）い
「樺太時代の忘れ物」



北海道ポーランド文化協会・会員
尾形芳秀

ブロニスワフ・ピウスツキ没後100年記念行事報告
～アイヌの世界　ブロニスワフ・ピウスツキから萱野茂まで～



《主な講演内容》

1）サハリン・樺太との関わり
2）ブロニスワフ・ピウスツキ展のオープニング
3）シンポジウム、記念碑除幕式
4）プシュチナ(文化遺産)、ザブジェ(炭鉱遺産)、ジョルィ視察記
5）対談、Q&A Session（尾形氏に聞く）

日時:
2019年3月3日(日)
午後1時30分～4時30分

会場:
札幌エルプラザ 4F 大研修室 B, C
札幌駅北口正面のビル　(011)728-1222

入場無料・事前申込み不要.
先着50名とさせていただきます.
詳しくは当協会のHP http://hokkaido-poland.com をご覧ください。
お問い合わせ先: hokkaidopolandca@gmail.com　TEL.080-4071-0956（安藤）

主催：北海道ポーランド文化協会・Hokkaido Poland Cultural Association

「樺太時代の忘れ物」ポーランドへの誘い

「ブロスワフ・ピウスツキ没後100年」との関わり

昨年(2018年)は、ポーランドにとっては大きなイベントのあった年でした。

その記念の年とは、ポーランドが長いこと近隣帝国に分割統治されていた時代がありましたが、123年振りに独立を果たしてから100周年を迎えたのです。この分割統治の時代、ポーランドの多くの人々は、亡命したり、ロシア帝国によりシベリアやサハリン島に流刑になっていました。また、第一次世界大戦のあとシベリアに抑留され飢餓状態になっていたポーランド人孤児を日本が救出したことは、今なお両国民の記憶に残されています。以来、両国は友好国として今日に至っております。

日露戦争のあと日本領になった樺太でもポーランド人と関わりがありましたが、このことはほとんど知られていません。それは、この島が以前ロシア領だったことに起因しています。つまり樺太時代に残留していた人々はすべてロシア人と見なされていたためです

分割統治の時代に、ポーランドの独立回復に二人の兄弟が大きく関わっていたことが知られています。一人は、兄ブロニスワフ・ピウスツキ、もう一人は、弟ユゼフ・ピウスツキです。二人は、大学で法律や医学を学んでいましたが、予期せぬ事件に巻き込まれ、弟はシベリア、兄はサハリン島に流刑にされました。弟はロシアの拘束から逸早く逃れ、母国の独立戦線で戦っていましたが、兄はサハリン島にあって脱出できずにいました。

幸運なことにこの島の流刑開拓囚の中には同胞の社会がありました。彼らはブロニスワフよりも2〜3年早く流刑となっていましたが、開拓囚を志願して自活できるまでになっていました。このポーランド人集落のことを彼らは「ワルシャワ村」と呼んでいました。初代リーダーはワルシャワ出身のフランツ・チェハンスキ(ポーランド軍の古参騎兵)、二代目はミンスク郊外のシュラフタ(領主)ユゼフ・ジェヴスキ(ウラジミロフカ・牧場)、三代目はウッチ出身の教育者でアダム・ムロチコフスキ(白浦、北サハリンからの亡命者、樺太波蘭人会会長)に受け継がれていました。ブロニスワフはサハリンのポーランドコミュニティと接触して研究上の支援を受けていた可能性も窺われます。

ブロニスワフは、アイヌ集落の「アイ」にあって、アイヌ民族の研究やアイヌのための識字学校を開設していましたが、その間にアイヌのエカシの姪と結婚しています。

このような環境下で、彼は北海道のアイヌ民族の研究調査なども行い、白老、平取、そして札幌をも訪れたりしておりましたが、世界情勢の推移に伴って、妻子を残し、日本と米国を経由して母国に向かうのでした。

今回は、サハリン時代のブロニスワフの活動や、樺太時代のポーランドコミュニティの動向について、知られざるエピソードを含めて、新しい視点を紹介したいと思います。

講演者: 尾形　芳秀　　2019年1月20日

1937年樺太庁豊原市に生まれ、ソ連統治下での戦後2年間を含めて、1947年まで幼年時代を樺太で過ごされた尾形氏が、あの頃いったい何が起こっていたのかと、その記憶の断片を「樺太時代の忘れ物」として探し求めてすでに20年が経過しました。それが、昨年にはなんと遥かポーランドの地へと誘われるに至ったのです。

こんにち忘れ去られようとしているあの頃の砂の数ほどの不幸で理不尽な有様 ― その元凶であった当時の世界情勢の真相に関して、いつの時も繰り返される権威の執行の通念と、そのシステムの執行下に隠蔽された犠牲者とは、いったいどのような人たちだったのか、今を生きる私たちも知っておきたい重要な「忘れ物」ではないでしょうか。

尾形氏をその探求に誘うパワーの源とは何か？

その「忘れ物」の中に尾形氏の思いと心を揺り動かすパワーが見え隠れしているに違いない。【企画担当者より】